

令和5年度

事業活動報告書

社会福祉法人 グラン・ヘリオス会

令和5年度 事業報告

令和5年度 施設目標

「地域福祉の拠点となり思いやりの心で笑顔の暮らしに繋がります」

令和5年度は、新型コロナウイルス感染症が5類に移行され少しずつではありますが面会・イベント等に規制緩和が進み、日常生活に変化が見られた1年になりました。自然災害や感染症等はいつ何時発生するか予測不能な事態にも備えるべくBCP計画の策定を行い、有事の際の初動体制の確立と事業継続を図るための準備態勢を整えました。計画の内容につきましては引き続き追加と見直しを繰り返し研修と訓練を行いながら準備していきたいと思っております。

引き続きご入居者様、ご利用者様が安心して快適な生活を提供し、ICT化や新しいものを取り入れ今後もより質の高いサービスを提供して参ります。

【特養部門】

新型コロナウイルス感染症対策について

- ・新型コロナウイルスワクチン接種（入居者・職員）
6回目： 6/6 ～ 6/27 （4日間）
7回目：10/24 ～ 11/21 （4日間）
- ・埼玉県における抗原検査の実施
9/3 ～ 11/25 12週間
1/1 ～ 3/30 14週間
- ・一斉メールシステムによる情報提供
- ・マニュアルの充実と初動体制の確立
- ・感染症研修と訓練実施
- ・対面式での面会・ガラス越し面会の実施

排泄ケアについて

- ・排泄委員会にてオンラインによる研修会を実施（隔月全6回）
- ・オムツ排泄ゼロの取組みとして、トイレでの排泄誘導
一人一人に適した排泄用品の選択することでコスト削減に繋がっている

稼働率

- ・従来型 97.3% 50.6名（前年度96.3% 50.1名）
- ・ユニット型 94.8% 45.5名（前年度96.6% 46.4名）
- ・退所者数 本館24名 新館17名 合計41名（前年度 本館18名、新館16名 合計34名）
退所者のうち25名がターミナルケア、16名は急変等により医療機関へ入院等
- ・タイムラグ 本館 10日（前年度12日） 新館14日（前年度11日）

施設のイベント

新型コロナウイルスが5類に移行され、外出機会や集合形式でのイベントを増やすことが出来た。

○外出イベント

(あじさい見学、花久の里見学、川里フェスティバルへの参加、びっくりひな祭り見学等)

○集合形式でのイベント

(球技大会・ビアガーデン・川里祭・もちつき大会・いちご狩り等)

【在宅部門】

- ・地域包括・居宅・デイサービス・ショートステイとの月1回定例の在宅部門会議の実施
- ・デイサービスの利用が1日平均 19.5名 56.4% (前年度 21.1名 稼働率 61.2%)
- ・ショートステイ利用が1日平均 7.1名 89.0% (前年度 6.3名 稼働率 79.0%)

【法人部門】

- ・理事会の開催 全5回 (5/30、6/19、10/17、12/19、3/26)
- ・評議員会の開催 全1回 (6/19)
- ・SNS、ホームページ等での情報発信
- ・法人間連携による情報発信並びに情報共有 (研修・ホームページ・求人・入居申し込み等)
- ・新館ワックス清掃

委員会活動

- ・分野別専門的に議論し各部署会議にて検討
- ・各部署より検討意見を持ちより具体的な検討・実施

苑内設備更新

- ・新館共用部空調機器更新 (補助金活用)
- ・ガスバルク交換工事
- ・新館浄化槽修繕
- ・厨房業務用食器洗浄機更新

【人材育成・人材確保】

- ・苑内での研修会を30回行い、延べ342名が参加
- ・第16回事例報告会では、10部署が発表し28名参加
- ・幸手看護専門学校から保健学科 2名の実習生受入れ
- ・3月に特定技能外国人2名を採用 (ベトナム)
- ・職員8名 (リーダー候補者) を1年通して研修を実施 (将来のリーダー育成・チーム力向上等)

令和5年度 委員会・会議評価

委員会	委員長	評価
広報委員会	程原	<p>・広報誌 …… 作成担当者を中心に季節折々の苑の行事や様子を掲載、例年通り年4回発行することができた。</p> <p>・ホームページ …… 日々の特養・デイそれぞれ行事を中心に新着情報を掲載できた。求人や入居申込などにも活用されている。</p> <p>・Instagram …… 昨年度委員会で案の上があったSNSでの情報発信について、研修を受けながら開設することができ、苑の新たな広報活動に挑戦できた。</p> <p style="text-align: center;">委員を中心に試行錯誤しながらも目標とした年度末までにフォロワー数2,500人を達成した。</p>
イベント委員会	進藤	<p>少しずつ外出する機会も増えてきており、季節を感じる事が出来るようになった。室内行事も楽しんで頂いているが、やはり外出し日差し詫びて外気に触れる事がリフレッシュになり、笑顔も輝いて見える。今後も感染対策をしつつ、たくさん入居者の方々と外出する事が出来ればと思う。</p>
給食委員会	荻野	<p>会議を通して、栄養課から各部署への説明を行い、伝達漏れが減少できたため今後も継続して行いたい。</p> <p>委員会であげられた意見を、栄養課内で話し合い、より早く改善し食事への満足度を上げられるよう努めていきたい。</p>
衛生委員会	岡村直	<p>健康診断について入居者並びに夜勤職員2回目の実施が年度末まで伸びてしまったが、法で定める回数の実施は出来た。</p> <p>予防接種において、年1回実施インフルエンザワクチン接種の他、新型コロナワクチン接種も春接種及び秋接種と年2回実施し、病院との調整のうえ、希望する入居者及び職員へ滞りなく接種を行うことができた。</p> <p>埼玉県より無償提供された検査を有効活用し、早期発見に大いに役立てることができ、感染拡大防止に資することが出来た。</p> <p>面会において5類移行に伴い個室での面会体制も整えた上で徐々に緩和しながら実施できた。</p> <p>今年度も各フロア工夫を凝らし長寿新聞等によりご家族への情報発信に励んでいた。</p> <p>福祉用具について定期的に保有台数や必要台数の確認・共有を行う一方で、みまもりセンサーやマッスルスーツ等の介護ロボットの活用方法を改めて議論したが、有効的な実践までは至らなかった。</p> <p>感染予防具着脱訓練や嘔吐物処理勉強会を定期的実施し、実践を交えながら万々に備えることが出来た。</p> <p>BCP計画策定し、計画に基づく実地訓練を実施するところまで行えたが、次年度以降は更に具体的に分かりやすい内容となるよう見直しをかけ、川里苑に適したものになるよう実地訓練も含め取り組んでいきたい。</p>
防災委員会	藤田	<p>防災訓練では地震を想定したのち火災が発生した場合の訓練を取り入れ、いつ発生するか分からない災害に少しでも焦ることなく行動に移せるような訓練を行うことが出来た。集団訓練は通例になっていることもあり、次年度は異なる内容の訓練を検討する。</p> <p>水害訓練では水害の危機意識を高めることができ、水害を想定した垂直訓練(非常階段を使用)を実施し、今後も継続したい。</p> <p>BCP計画策定し、委員会等で議論しながらより具体的に、かつ職員にも周知徹底出来るよう取り組んでいく。</p>
感染症対策 医療的ケア委員会	中田	<p>今年度は吸引と吐物処理の講義を行うことができ、特に吐物処理の講義は好評であったため次年度も定期的に実施する。</p> <p>感染症は一度流行すると本当に恐ろしいため、次年度は外部講師による講義も検討したい。</p> <p>日々の職員の努力によりクラスターになることなく5年度を終えることが出来たことは幸いであった。</p>
入所判定委員会	島田	<p>入所待機者については4月から減少傾向に有り、夏場に増加傾向となったが今年度後半に短期間の多数の退所があった。</p> <p>前年比で大きな増減なく推移した。特例での申込については3件有り、全て入所に繋がっている。特例については判定会議において該当するかを慎重に審議できている。出席メンバーから様々な意見等をもっと取り入れできるように委員会をすすめていきたい。</p>
苦情処理委員会	島田	<p>今年度については特養の苦情を受けることはなかった。各部署同士で情報共有が行えている結果ではないかと思う。</p> <p>一方で前年同様に感染対策中のために御家族との関わりが少なく表に問題として出てきていないだけかもしれない。</p> <p>デイ、ショートについては結果として御家族に反応が伝わりやすいため苦情であがりやすい。</p> <p>苦情については真摯に向き合い改善していく事によってサービス向上に繋げたい。</p>
身体拘束廃止 委員会	高山	<p>苦情を受けやすい事柄については真摯に向き合い改善していく事によってサービス向上に繋げたい。</p> <p>両手ミトン使用。患部のテーピングを剥がしてしまい命に関わる事も考えられるため、拘束着着用の2件の身体拘束があった。</p> <p>きちんと議論し対策が取れていた。工夫についてもどの部署もして頂いている。</p>
排泄委員会	金井	<p>今年度は6回教育プログラム研修があった。研修で学んだ事を各フロアで伝達してもらった。</p> <p>その人に合った排泄用品を選び、無駄のないようにしていきたい。研修の課題は全て、期間内に提出できた。</p>
リーダー会議	古市	<p>各部署内の問題点等の議案が毎月あげられることはなく、各リーダーが部署内で対応できている状況がみられる。</p> <p>できていない事についての課題解決は、共有して話し合うことができた。</p> <p>ボランティア受け入れができていない為、クラブ活動の充実に取り組み、年内に活動できるまでに進めることができたのは、リーダー間の協力が有り、介護職員全体での協力体制となった。</p>
虐待防止・ 接遇委員会	野本和	<p>1年を通し不適切だと思ふ気付きの報告、対応、そしてその後の結果など、各フロアで話し合ったりし、良い結果を出せたと思う。</p> <p>ハラスメントなども、その都度 気になることを報告し、アドバイスをもらうことができた。</p> <p>コロナ後の面会等、各フロアで意識し、ご家族様と関わっていた。</p>
研修・ 教育委員会	古市	<p>キャリアパス要件に応じた外部研修への参加と、苑内勉強会では事故防止・虐待・身体拘束廃止・認知症・感染症・就業規則等の項目他、全32回開催で340名の参加多数参加型の研修会が少なかった為、情報伝達に、各部署へ持ち寄り代表者に周知徹底の協力を得た。</p> <p>外部研修受講ができない事もあり、次年度は外部研修の参加を更にできるようにしたい。</p> <p>事例報告会は第16回となり、職員の発表への意識が高まっていた。</p>
事故防止 対策委員会	小野閑	<p>防ぐべき事故である誤薬が令和4年の前期よりも令和5年前期では2倍の件数に増えてしまった。</p> <p>誤薬の事故が発生する可能性は高く最大のリスクとなるため、1つの防止策として12月より職員の必ず目に付く場所に「今月の誤薬件数」を掲示。</p> <p>日々意識してもらい服薬介助時には一回一回確実に確認することでリスクの軽減につなげていきたい。</p>
四半期会議	牧	<p>各部署管理者・リーダー等が一堂に会し、年4回3か月ごとの各部署における実績や実施内容等の報告会を行った。</p> <p>荻野業務執行理事にもご出席・ご意見を頂きながら、前年度との比較の中で見いだされた課題や現状の分析を各部署における管理者レベルの職員が共通認識し、他部署の成功事例や悩み等を共有できた。今後も連携しながら法人の運営をより良くしていきたい。</p>
経営会議	牧	<p>毎月の営業月報により前月の稼働率等を振り返り、実績分析、各部門の課題やアピールポイント等の情報共有が経営状況等の理解・把握ができた。今後も法人全体で協力・連携しながら健全な運営を行っていきたい。</p>

令和5年度 各部署の評価

部署名	目標
本館2階	担当者を中心に入居者様に寄り添い、何か変化があった際は報・連・相し、良いケアに繋がっていた。 7月から看取りの方が増えたが、その人らしく過ごせるようケアすることができたと感じる。 下半期の行事は再検討し、フロアの入居者様が楽しめる行事ができた。
本館3階	コロナ感染も落ち着き、今までの日常が戻ってきた1年であったが、沢山の看取りを経験した。 まだ面会が制限されている中で、家族の意向も取り入れながら、その人に寄り添い接することができた。 フロア内でも、色々相談し合うことができた。
新館1階	4月入院の方が2名、初旬に2名の方が急逝され入れ替わりが多かったが、その後1年を通して大きな問題などなく落ち着いていた。 ただ自立された方との関わり方に差が出てしまっていたように思う。入居者1名の方から、特定の職員に対しての不安が強く、寄り添い方を再確認していかなければならない。フロアの雰囲気など、入居者の方に不安や不信感を与えてしまわないよう今後も課題として念頭に置く必要がある。
新館2階	・24Hシートにおいては理解されていないスタッフもあり、暮らしの支援の中に反映させて繋げていくことはできなかった。 次年度は24Hシートに向き合えるような取り組みを考えていきたい。 ・入居者様へのやさしい言葉がけなどはスタッフ一人ひとりが意識している様子が見られていたが、業務に追われてしまい入居者様とのコミュニケーション不足を感じた。 ・今年度はコロナ禍ではあっても少し緩和され、季節を感じられるものも取り入れ、入居者様に少しは楽しんで頂けたと思う。 次年度はもう少し行事も取り入れ、入居者様に楽しんでもらえるようにしていきたい。
新館3階	行事はあくまで予定なので変更しているが、皆さま喜ばれている様子であった。こういうことがやりたいと要望があれば次年度も随時変更し行っていきたい。目標に対しては、始めた時よりも時間を上手に使い、お話ししていたり、笑顔になることが増えたと感じる。 本年度の経験を活かし、入居者様と笑って楽しい時間を送れるよう取り組みを行う。
新館4階	・訴えることができる入居者様はわかりやすく対応できるが、訴えることができない入居者様の立場になって考えられるよう努力したい。 ・入居者様から訴えが聞かれた際は立ち止まり傾聴してから行動するよう心掛けていた。 ・意見交換は出来ているが、統一したケアについては努力が必要。 ・フロア新聞にて苑生活が伝えられるよう、今後も新聞発行を継続していきたい。
デイサービス	令和5年度は春から初夏にかけて、お花見ドライブの計画を立て外出行事が楽しめたことは良かったと思う。 クラブ・レク活動は、目標に掲げた自宅での会話が弾むような外出や発表会、製作など行え、また足湯や入浴剤を使用した足湯や入浴剤を使用した入浴サービスの提供が出来た。 令和5年度は、4月から数カ月間、利用者の稼働が低迷していたが、下半期より徐々に稼働率が上向きになってきたため、継続できるよう次年度も事業所への営業とデイサービス活動をアピールしていく。
事務	ご家族様対応では個室での面会もはじまり、大きな問題はなく実施できている。引き続きご利用者様ご家族様に面会して頂けるよう努めたい。 また、感染症発生時には、BCP計画に沿って速やかに対応していきたい。 特定技能生の受け入れも2名増員となり、設備を整える中で埼玉県による外国人環境整備事業補助金の申請も滞りなく実施できた。 その他埼玉県ならび鴻巣市による光熱費高騰対策支援補助金に加え、助成金を活用し設備(新館エアコン一部)更新を実施した。 事例報告会を通して消耗品の在り方について各部署が認識してもらうことができた。 物価の上昇も視野に入れながら定期的に消耗品を協議していきたい。
看護	今年度は看護師退職に伴い人員不足の為様々なことへの報・連・相が上手くいかないこともあったが、業務に対してミスのないよう細心の注意を払っていた。大きな事故等もなく今年度を終えることができ安堵している。 次年度も引き続き看護としてのテーマを持って業務に取り組んでいく。
栄養	今年度より、各階のおやつ作りイベントを制限なく企画実施して頂くことができ、入所者様が楽しめるイベントが増やしていった。 栄養課内では、おやつ提供や選択メニューを計画的に実施し、伝達ミスを減らすことが出来たため次年度は献立や行事食も早い段階から計画的に進められるよう改善していきたい。
生活相談員	平均稼働率:本館97.3% 新館94.8% 補正目標稼働人数:本館50.4名 新館46.3名に対して本館50.6名 新館45.5名という結果であった。 タイムラグの平均としては本館10日 新館14日と新館側で目標値には届かなかった。原因としては新館側の待機者が慢性的に不足しており空いた際の準備が整っていないことに有る。新館側でのメリット(売り)を明確にし減免などを活用するなど申込者を増やす努力をしていきたい。 今年度は、申込者数が減少傾向にあるなかで退所が41名と最多となった。また入院者や入院日数が多く明らかに稼働率が低下する原因となっている。看取りや入院が多いのは仕方ないで片づけず何か対策が無いのか考えていかないといけない時期に来ているのではないかと考える。
居宅	今までにない数字の新規相談があった年と言える。新型コロナウイルス感染が5類になったことも関係してデイサービスやショートステイ利用も目まぐるしい1年だったが意義深い支援も多々あり充実した1年でもあった。 来年度も気持ちを一層引き締めて信頼して頂ける支援を心掛け研鑽していきたい。
介護支援専門員	①日頃から入居者様やご家族と関わりを持ち、意向確認を行いながら計画書に反映することができた。 新規入居者が多く、信頼関係を築くことが課題でもあった為、今後も関わりを意識していきたい。 ②日頃から入居者様やご家族、職員と関わりを持つことや記録などから身体状況の把握や日頃のケア方法を確認することができていたが、アセスメントの確認が追いつかず昨年度同様に活用できていなかった。 次年度はアセスメントをしっかりと行い他職種と情報共有を行いながら計画書に反映させていきたい。 ③計画書の速やかな送付を心掛けていたが、必要書類が揃うまでに日数がかかったこともあった。 確実な送付、同意を得るために今後も意識して速やかな対応を心掛けていく。
地域包括	1.感染症対策を行いながら、訪問の実施ができた。各種会議、教室等も対面実施することができた。 2.電話や訪問相談を行い、認知症支援推進員や各機関との連携を図り、支援にあたることができた。 3.自立支援地域ケア会議や推進会議、生活整備体制事業に携わり、地域住民からの情報を得て、地域の社会資源の把握に努めてきた。 ネットワーク会議を通じ、地域との連携強化に努めた。